

アジアの中の日本 —信頼形成への道

Japan in Asia:
The Path to Building Trust

2013年11月29日(金) - 12月1日(日) Date: 29 November - 1 December 2013

19:00 開会式 19:00 Opening Ceremony

申込締切 / 2013年10月29日(火) 場所 / 湘南国際村センター (神奈川県葉山町)

Application Deadline: 29 October 2013 Venue: Shonan Village Center (Hayama-machi, Kanagawa)



アジアから日本を考える Considering Japan from an Asian Perspective



基調講演 Keynote Lecture

テーマ Theme

「21世紀のアジアと日本 —文化の視点から」

Asia and Japan in 21st century
—from cultural point of view

青木 保氏 Dr. Tamotsu Aoki

(国立新美術館館長) (Director General of the National Art Center, Tokyo)



プロフィール Profile / 1938年東京生まれ。東京大学・同大学院で文化人類学を専攻。大阪大学で博士号取得。1965年以来、タイとスリランカを中心にアジア各地でフィールドワークに従事。その間、バンコクの仏教寺院で僧修行をする。阪大、東大、政策研究大学院大学などで教授を務めた後、文化庁長官(2007年4月-2009年7月)。仏、独、米、タイなどの大学で客員研究員や客員教授、日本民族学会会長(現文化人類学会)なども務めた。近著に『文化力の時代』(岩波書店、2011)『作家は移動する』(新書館、2010)『文化の翻訳』(東大出版会、2012)など。2012年1月から現職。

セミナー プログラム Seminar Program

※都合によりプログラム、講師は変更する場合があります。

- 11月29日(金)
 - 17:00 受付開始
 - 18:00 夕食
 - 19:00 開会式
 - 19:15 基調講演 [共通セッション I]
 - 20:45 分科会説明
 - 21:00 分科会演習 I (22:00 まで)
- 11月30日(土)
 - 9:00 分科会演習 II
 - 12:00 昼食
 - 13:00 特別セッション [共通セッション II]
 - 14:45 休憩・自由行動
 - 16:00 分科会演習 III
 - 18:00 夕食
 - 19:00 分科会演習 IV (22:00 まで)
- 12月1日(日)
 - 9:00 分科会演習 V
 - 12:00 昼食
 - 13:00 分科会発表 [共通セッション III]
 - 15:30 閉会式

主催
Organized by
協力
cooperation by

KIF 公益財団法人かながわ国際交流財団 神奈川県
Kanagawa International Foundation (KIF) Kanagawa Prefecture
インカレ国際セミナー組織委員会
Inter-college International Seminar Organizing Committee

アジアを語る Debating Asia

インカレ国際セミナー組織委員会委員長 Chair, Inter-College International Seminar Organizing Committee

梶島 洋美 (横浜国立大学准教授) Hiromi Kabashima (Associate Professor, Yokohama National University)

冷戦が終了して20年以上たつにもかかわらず、アジアには領土、歴史、核開発、資源エネルギーなど、いくつもの不安定要因が存在してきました。今日、私たちをとりまく不安定要因のほとんどは冷戦期に由来するものであり、もしかするとアジアでは冷戦が終了したとは言えないのかもしれませんが。一方、1980年代以降アジアが急速に経済成長したことは、アジア全体に自信を与え、国際社会に強く印象づけてきました。アジア金融危機や世界経済危機を経験してもなお、新たな発展へ向かおうという勢いがみなぎる中で、私たちは豊かさや自信をアジアに求めようとする傾向にあります。まさにアジアには冷戦期に、外交面での「貧しさ」と経済面での「豊かさ」という二重構造が築かれ、それが今日まで引き継がれてきたと言えるでしょう。しかし近年、国内格差や失業問題など、経済面での「豊かさ」が揺さぶられるにつれて、外交面での「貧しさ」が大きく表面化しています。このような時代に生きる若い皆さんに、あらためてアジアの中での日本の立ち位置を考えてほしいと思います。



インカレ国際セミナーは今年で11回目を迎えます。今回は、この先の10年を見すえて、「アジアの中の日本」という統一テーマを設定しました。基調講演では、元文化庁長官で文化人類学者でもある青木保氏にご登壇いただきます。また2日目の特別セッションでは、日本在住22年を数え、日中関係の書籍を出版する会社の編集長で、日中の草の根交流を地道に支えてきた段躍中さんと対話型のワークショップを行う予定です。

みなさんもこれまでに参加した数百人の先輩たちと同じように、同年代の仲間とともに悩み、議論をして、今後の学生生活や就職活動、社会人としての生活につなげていってください。人生の中で、今しかできない体験です。積極的な参加を待っています。

Although more than 20 years have passed since the end of the Cold War, Asia still suffers from political and security issues related to such issues as territorial disputes, historical interpretation, nuclear development, and energy resources. Most of the issues originally stem from tensions arising during the Cold War era, which suggests that the Cold War has not ended in Asia. Meanwhile, the rapid economic growth in Asia since the 1980s has boosted regional pride and greatly impacted the international community. Asians take pride in this economic growth and the ability to bounce back from serious economic crises. From this perspective, Asia consists of two layers from the Cold War era: “feeble diplomacy” and a “powerful economy.” But now that the recession of recent years has weakened that powerful economy, the feebleness of Asian diplomacy has become even more noticeable. This makes it necessary to consider how Japan should conduct itself in its relationships with other Asian countries.

The 11th Inter-College International Seminar will be held under the theme “Japan in Asia”. The former director of Japan’s Agency for Cultural Affairs, Dr. Tamotsu Aoki will deliver the keynote lecture to kickoff the seminar. The seminar’s special session will feature Dr. Duan Yue Zhong, the editor in-chief of the Duan Press and supporter of grassroots exchanges between Japan and China.

I hope that, as at previous seminars, the participating students will use the event as an opportunity to think and discuss the issues with other participants, and that this participation will be an experience that benefits their academic pursuits, job hunting, and future careers. I look forward to seeing everyone in November at the seminar.

組織委員 Organizing Committee Members

梶島 洋美	横浜国立大学准教授 (委員長)	Hiromi Kabashima	Associate Professor, Yokohama National University (Chair)
小久保康之	東洋英和女学院大学教授	Yasuyuki Kokubo	Professor, Toyo Eiwa University
鞠 重鎬	横浜国立大学教授	Joong-Ho Kook	Professor, Yokohama City University
黒川 修司	東京女子大学教授	Shuji Kurokawa	Professor, Tokyo Woman’s Christian University
林 載桓	青山学院大学准教授	Jaehwan Lim	Associate Professor, Aoyama Gakuin University
大芝 亮	一橋大学教授	Ryo Oshiba	Professor, Hitotsubashi University
押村 高	青山学院大学教授	Takashi Oshimura	Professor, Aoyama Gakuin University
貴家 勝宏	東海大学教授	Katsuhiko Sasuga	Professor, Tokai University
白鳥 浩	法政大学教授	Hiroshi Shiratori	Professor, Hosei University
滝田 賢治	中央大学教授	Kenji Takita	Professor, Chuo University
武藤 誠	(公財) かながわ国際交流財団 常務理事	Makoto Mutoh	Managing Director, Kanagawa International Foundation (KIF)

分科会 Discussion Groups アジアを読み解く5つのテーマ Five Themes for Deciphering Asia

*分科会の詳細はKIFホームページでご確認ください。For more information, please check the KIF website.

*ノートPCをお持ちの方は是非ご持参ください。なくても問題はありません。

It is encouraged to bring your own laptop computer for discussion group. It's no problem even if you don't have one.

分科会 A アジア・世界の経済協力

Japan's Economic Cooperation with Asia and the Rest of the World

講師：鞠 重鎬、貴家 勝宏

アジアの中の日本が、中国・韓国・東南アジアだけでなく、欧米など世界の国々と経済協力をどのように進めるべきかを考えます。日本が交渉協議に入っているTPP(環太平洋経済連携協定)は、果たしてどのように展開されるのでしょうか。また、ギリシャ財政破たんからの例から見るように、最近ではヨーロッパの一国の危機が、世界経済に多大な影響を及ぼしています。周知のとおり、日本の財政も厳しい状況です。もし日本の財政が破たんしたら、日本だけの危機に止まるのではなく、日本発の世界経済危機が訪れる恐れもあります。

2012年12月、安倍政権が発足しましたが、「三本の矢」と言われる大胆な金融政策、機動的な財政政策、民間の活力を生かす成長戦略は、果たしてうまく機能するのでしょうか。既に、日本銀行は、大胆な金融緩和を行うと宣言し、それがしばらくは円安・株高をもたらしました。しかし、第三の矢である成長戦略が発表するや、株価はむしろ下落に転じました。背景には国内外のファンドが絡んでいるからでしょう。

FTA、TPP、ASEAN等に係る経済協力問題の背景だけでなく、アジア・世界各国

の財政・金融がどのように絡んでいるか、グループで議論し、まとめてみたいと思います。

<参考文献>

- ①馬田啓一、木村福成『検証・東アジアの地域主義と日本』文真堂、2008年。
- ②井堀利宏監訳『入門財政・公共政策』勁草書房、2006年。
- ③添谷芳秀ほか編『現代東アジアと日本1 日本の東アジア構想』慶應義塾大学出版会、2004年。
- ④馬田啓一、浦田秀次郎、木村福成編著『日本のTPP戦略 一課題と展望一』文真堂、2012年。

<事前課題>

- 日本・アジア・世界各国の経済・財政・金融政策が、どのように絡んでいるか、一通りまとめてくること。
- 日本、中国、韓国、ASEAN、他の地域（ヨーロッパなど）のFTA政策やTPPなどの内容について調べてくること。

分科会 B 外交—日本のアジア外交

Diplomacy—Japan's Foreign Policy toward East Asia

講師：滝田 賢治、黒川 修司

「アジアの中の日本」をテーマとしているので、本分科会では「短中期的な日本のアジア外交」について、ある程度の根拠を持った日本のアジア外交のイメージを描くことを最終的な到達目標とします。ここでいう短中期的とは3～10年ぐらいの時間を指すことにします。これを到達目標に議論する場合、まず第1に日本の過去のアジア外交とその悲劇的な結果を確認することが不可欠であることは議論を待たないでしょう。第2に、第2次大戦後、平和主義、国連中心主義とアジア重視政策を外交の旗印にしてきたにもかかわらず、米ソ冷戦の中で日米同盟関係も重視せざるを得なかった理想と現実の間の緊張関係を具体的事例によって確認します。第3に、冷戦終結と、これをも一大要因として現象化した現代グローバル化により、経済的に台頭してきたアジア諸国と、日本との間に横たわる外交課題につい

て検討します。そして最後に、今後3～10年間の世界情勢とアジア情勢を展望しながら、日本のアジア外交の課題と解決方法を議論し、日本のアジア外交のあるべき姿をイメージしたいと思います。参考文献4冊すべてを十二分に読み込む気概のあるチャレンジャーの参加を期待します。

<参考文献>

- ①小倉和夫『吉田茂の自問 一敗戦そして報告書「日本外交の過誤」』藤原書店、2003年。
- ②数中三十二『国家の命運』新潮社、2010年。
- ③ロナルド・ドーア『日本の転機 一米中の狭間でどう生き残るか』ちくま新書、2012年。
- ④PHP「日本のグランド・ストラテジー」研究会編（山本吉宣、納家政嗣、井上寿一、神谷万丈、金子将史）『日本の大戦略 一歴史的パワーシフトをどう乗り切るか』PHP研究所、2012年。

分科会 C アジアにおけるエネルギー・資源・環境と日本

Japan and the Energy and Environment Situation in Asia

講師：梶島 洋美、小久保 康之

近年、エネルギーと環境は、きわめて論争的でセンシティブな問題になっています。これらは、とかく日本の国内問題や二国間関係という点から議論されがちですが、むしろ国際社会、特にアジアでの日本の立ち位置という視点から考える必要性があります。たとえば、アジアではエネルギー生産国と消費国が混在する一方、ヨーロッパのように隣国からエネルギー資源を輸入することが必ずしも容易ではない中で日本は何をなすべきなのでしょう。またアジア共通の課題として、原子力発電と化石燃料をどれだけ利用していくか、PM2.5の拡散にどう対応するかという課

題もあります。

本分科会では、①アジアのエネルギーと環境に関わる共通の問題を整理するとともに、②ヨーロッパでの地域協力の経験をアジアへ適用することが可能なかを検討します。また、③エネルギーと環境のバランスについて、アジア諸国との協調、日本の貢献はどのような形ならば可能なかを議論します。

<参考文献>

- ①堀井伸浩「第16章 東アジアのエネルギー協力 一その潜在的効果と展望一」平塚大祐編『東アジアの挑戦』アジア経済研究所、2006年、435～462頁。
- ②寺西俊一『環境共同体としての日中韓』集英社新書、2006年。
- ③脇坂紀行『欧州のエネルギーシフト』岩波新書、2012年。

分科会 D 自然災害と緊急・人道援助—国際・国家・地方とシビル・ソサイエティ

Natural Disasters and Humanitarian/Emergency Assistance

講師：白鳥 浩、大芝 亮

従来、公共政策の展開は、政府に代表される「公的セクター（public sector）」の領域に関わるものとされ、利潤追求を主な目的とする私企業などの属する「私的セクター（private sector）」は、関わらないものとされてきた。

ところが、近年、こうした公的セクターの肥大化による国家、地方の政府財政の圧迫が叫ばれる中で、政府が変わって、NGO（非政府組織）やNPO（非営利団体）などの「シビル・ソサイエティ（civil society）」領域に属する組織の活用による、政府機能の補完が試みられるようになってきた。

これは「ガバメントからガバナンスへ」という時代のスローガンとなって、1990年代以降の世界の一つの潮流となってきたことは、広く知られている。こうした潮流はアジアにおいても無縁ではない。しかしながら、アジアにおいては、先進国で

のシビル・ソサイエティのあり方は異なる面も存在する。

本パネルにおいては、「国際」—「国家」—「地方」の三つの領域をつなぐシビル・ソサイエティを議題とし、アジア的なその特徴、ならびに国際化への貢献などを検討する。

上記の問題を、この分科会では、自然災害と緊急・人道援助の 이슈に焦点を当てて議論する。

<参考文献>

- ①武田康裕「自然災害と国際緊急支援」大芝亮編『日本の外交』第5巻、岩波書店、2013年。
- ②白鳥浩編『統一地方選挙の政治学：2011年東日本大震災と地域政党の挑戦』ミネルヴァ書房、2013年。
- ③「大災害と国際協力」研究会（著）、柳沢香枝（編）、明石康・大島賢三（監修）『大災害に立ち向かう世界と日本』佐伯印刷、2013年。

Group E (英語で討論します。Language: English) Selling Japan—Re-assessment of the “Cool Japan” Strategy

Lecturers: Takashi Oshimura, Jaehwan Lim

Can Cool Japan save post-disaster Japan? The concept of Cool Japan appeared in 2002 as an expression of Japan's new status as a cultural superpower. Gaining wide exposure in the media and academia, the brand of Cool Japan has been adopted by the Japanese government seeking to exploit the commercial capital of the country's culture industry. With the jarring images of tsunami and the ensuing devastation, however, the decade-long phenomenon of Cool Japan seemed to have come to an abrupt end. Or perhaps it turned in a new direction. Does the idea of Cool Japan still have a place in a post-311 world?

In this group, we will discuss the possibilities and limits of the Cool Japan Strategy. Our final goal is to present a policy proposal to help further

excavate and promote the “coolness” of Japan. In doing so, we will examine endeavors of other countries such as the United States, China and South Korea. Pretending to be a practitioner of public diplomacy with a mission of re-selling Japan to the post-311 world, participants are strongly expected to actively join the discussion and contribute to coming up with a practical and creative idea.

Reference:

1. Yasushi Watanabe. 2011. Bunka to Gaiko [Culture and Diplomacy]. Tokyo: Chuokoronsha. (Japanese)
2. Joseph S. Nye Jr. 2005. Soft Power. New York: Public Affairs.
3. Ministry of Economy, Trade and Industry, “Cool Japan Strategy” (January 2012) (http://www.meti.go.jp/english/policy/mono_info_service/creative_industries/pdf/120116_01a.pdf)

(都合によりプログラム、講師は変更する場合があります。Program contents and lecturers are subject to change.)

参加申込方法 Application Information

参加資格：東アジアの政治や文化、開発などに興味を持つ大学生、大学院生および若手社会人。専門分野は問いません。使用言語は日本語または英語です。通訳はつきません。

期間：2013年11月29日(金)～12月1日(日)
11月29日の午後5時から開会式会場前にて受付を行います。大学等の理由により遅れる場合には、遅くとも開会式の15分前までに受付を完了してください。なお、受講生は全プログラムに参加するものとします。

場所：湘南国際村センター
〒240-0198 神奈川県三浦郡葉山町上山口1560-39
<http://www.shonan-village.co.jp/>

定員：90名

費用：23,000円(留学生10,000円 ※但し選考があります。)

修了証：本セミナーを修了した参加者に対して組織委員会から修了証が交付されます。

宿泊：同性での複数人部屋(2～6名)

応募方法：所定の申込用紙に必要事項を書いて、FAX、郵送もしくはE-mailにて10月29日午後5時必着でお申し込みください。申込用紙は、湘南国際村学術研究センターのホームページからもダウンロードできます。(http://www.k-i-a.or.jp/shonan/incolle/のページで、[詳細はこちら](#)をクリック)

合格通知：応募者は組織委員によって審査され、全員に11月14日頃に合否を通知します。合格者には「参加証」と参加費の「お振込み先銀行口座」をE-mailにてお送りします。E-mailを受け取られましたら、11月21日までに参加費をお支払いください。

キャンセルについて：都合により参加を取り消される場合は、すみやかにセミナー事務局迄ご連絡下さい。所定のキャンセル料を差し引いた額を返金致します。

保険について：本セミナー期間中の施設(建物)の損壊に係る傷害には保険が適用されます。それ以外については保険の対象外となります。

お問合せ／お申込み：

(公財)かながわ国際交流財団 湘南国際村学術研究センター
インカレ国際セミナー事務局 (担当：佐々木、小松)
〒240-0198 神奈川県三浦郡葉山町上山口1560-39
湘南国際村センター内
TEL：046-855-1821 (9:00～17:00 土日祝日をのぞく)
FAX：046-858-1210 E-mail：incolle@kif.ac
URL：http://www.k-i-a.or.jp/shonan/

Qualification: Undergraduate/graduate university students of any specialized field, or young workers interested in East Asian politics, culture and development. This seminar will be conducted in Japanese or English. No interpretation will be provided.

Date: 29 November - 1 December 2013
Registration begins at 5:00 pm on 29 November. If you will be late for it due to a university etc., please complete registration at least 15 minutes before the opening ceremony. Participants are expected to stay for the entire duration of the seminar.

Venue: Shonan Village Center
1560-39 Kamiyamaguchi Hayama, Kanagawa 240-0198
<http://www.shonan-village.co.jp/svc/>

Number of participants：90

Fee: 23,000 yen (10,000 yen for foreign students. Note that there will be a selection process.)

Certificate: Each participant will receive a certificate upon successful completion of the seminar.

Accommodation: Room sharing with 2 to 6 people of the same sex.

How to apply： Please fill in the application form and send it to Secretariat by post, FAX or E-mail, no later than 5:00 pm 29 October. The application form can be downloaded on Shonan village Academic Research Center website.
<http://www.k-i-a.or.jp/shonan/incolle/>

Notification of admittance： Applications will be reviewed by the Organizing Committee. Results will be notified to all applicants by E-mail around 14 November. The participation fee must be deposited to the designated bank account by 21 November. Details will be sent to the selected participants directly.

Cancellation: If you have to cancel your attendance, please contact the Secretariat as soon as possible. Participation fees will be refunded after deduction of cancellation fees and bank charges.

Insurance: Insurance covers the injury concerning destruction of the building in this seminar period. Personal accident insurance is not applied other than this.

Secretariat:

Kanagawa International Foundation (KIF)
Shonan Village Academic Research Center
(Program Officers: Akie Sasaki or Rie Komatsu)
1560-39 Kamiyamaguchi Hayama, Kanagawa 240-0198
TEL: 046-855-1821 FAX: 046-858-1210 E-mail: incolle@kif.ac
Office hours: Monday - Friday 9:00-17:00 (except national holidays)
(Should you have any questions, please contact above.)

会場のご案内 Access

●バスをご利用の場合

▶JR逗子駅前1番乗り場より16系統、26系統「湘南国際村センター前」行きバスに乗車、終点の「湘南国際村センター前」下車。(所要時間約30分、料金340円)

※このバスは2～3分後に京急新逗子駅前1番乗り場に停車します。

▶京急汐入駅前2番乗り場より16系統「湘南国際村センター前」行きバスに乗車、「湘南国際村センター前」下車。(所要時間約30分、料金370円)

●タクシーをご利用の場合

▶JR逗子駅前タクシー乗り場より「湘南国際村センター」まで約15分。
料金約2800円。

<http://www.shonan-village.co.jp/access.html>

